

令和8年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の生徒（第3学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせいたします。

- 実施日時：令和8年4月23日（木）
- 参加者数：中学校4校 3年生 307名

1 学習の状況について

(1) 全体の結果（評価）

	国語	数学	英語
中学校3年	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

・教科に関する調査の平均正答率は、国語、数学、英語ともに全国平均・県平均と比べて、±5%の範囲内にあり、ほぼ同等です（文部科学省では「±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できる」と示しています）。

(2) 各教科の状況について ○＝平均正答率が高い問題 ●＝平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○表現の効果を考えて描写することができる。
	○助動詞の働きについて理解している。
	●語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができる。
	●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
数学	●文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができる。
	○正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができる。
	●具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができる。
	●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができる。
英語	●数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
	○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取ることができる。
	●自分の考えや気持ちなどを整理してまとまりのある文章を書くことができる。
	●短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができる。
	●日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができる。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・全体として全国平均・県平均と同等水準を維持しています。特に、英語（3技能）では体験や感想、理由等を表現する発信的技能で優れた成果を示しました。
- ・無解答率は全体的に低く抑えられており、最後まで諦めずに解答しようとする粘り強い取り組み姿勢が継続して定着しています。
- ・「思考力・判断力・表現力」については、情報を整理して根拠を明確に説明・再構成する表現力の育成が継続的な課題です。
- ・問題形式別では「記述式」に苦戦する傾向があり、特に数学において理由や解法の過程を説明する設問で引き続き課題が見られます。

②各教科の状況

【国語】

- ・「助動詞の働き」や「単語の活用」、「表現効果を考えた描写」が高く、基礎的な文法知識や情景・感情に応じた表現技法の理解は着実に定着しています。
- ・「話し合いでの発言の理解」や「情報の整理・構造把握」でも高い正答率を示しており、対話の展開を捉えて必要な情報を正しく整理・把握する力が育っています。
- ・「助言を踏まえた文章の推敲」や「根拠を明確にした考えの記述」に課題があり、他者の意見や根拠を取り入れて自分の文章を振り返り、論理的に再構成する記述・推敲指導の強化が求められます。

【数学】

- ・「累積度数の意味理解」や「同類項のまとめ」、「箱ひげ図と四分位数の読み取り」で高い正答率を示しており、基礎的な計算処理をはじめ、データの整理・分析や基本的な図形の論理的考察・証明の技能が着実に定着しています。
- ・「平行線の条件」や「反比例の表」、「証明の仮定の見出し」が低く、数学的な概念・性質の基礎理解や、証明の着想段階における条件整理に課題が見られます。
- ・記述式である「度数分布多角形の比較理由」や「関数の解釈・説明」で低調であり、単に計算・処理するだけでなく、判断理由や変化の様子を言葉や数式で筋道立てて説明・表現する指導の充実が必要です。

【英語】

- ・「体験や感想の記述」や「希望とその理由の記述」において全国を大きく上回り、自分の考えや気持ちを英文で表現する実践的な発信能力が大きく強みとなっています。
- ・「説明の聞き取り」や「文章とグラフの読み取り」、「情報に基づく英文記述」でも高い正答率を示しており、語彙や文法等の知識を活用して日常的な情報の聞き取り・読み取り・記述を行う基礎的な技能が着実に定着しています。
- ・発表の聞き取りや文章読解において概要・要点を把握する問題に課題があり、音声や長文から話の骨子や大意を整理して捉えるリスニング・リーディング力の向上が必要です。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果について（生徒質問紙による意識調査から）

【○望ましい項目 ●課題とみられる項目】

- 「朝食を毎日食べている」や規則正しい就寝・起床習慣が全国平均を上回り、良好な家庭・生活基盤が整っており、「学校に行くのが楽しい」や「友達関係に満足している」の回答率も高く、安心して楽しく学校生活を送る環境が築かれています。
- 「先生が自分のよいところを認めてくれる」や「分かるまで教えてくれる」の項目で全国平均を大幅に上回り、教員との温かい信頼関係と手厚い指導体制が伺え、「人の役に立つ人間になりたい」や「いじめはどんな理由であってもしけない」など、豊かな規範意識と高い自己有用感が育まれています。
- 「学級活動での話し合いを生かした目標設定」や「他者の意見を否定しない風土」など、互いを尊重し高め合う自治的な学級が構築されており、ICT活用への自信とともに、「学んだ内容を実生活や次の学習に生かす」主体的・探究的な学びの姿勢が定着しています。
- 平日・休日ともに家庭学習の時間が短い生徒が多く、「学校と家庭の学びの一体化」および自主的な学習習慣の確立が課題となっています。
- 新聞をほとんど読まない生徒が約9割を占める活字離れに加え、数学や英語に対する苦手意識や実生活での有用感低下への対応が求められます。

3 今後の取り組みについて（学力向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します）

□基礎学力の定着に向けて

- ・学習の習慣化を図りながら、基礎的・基本的事項の確実な習得と定着を図ります。
- ・タブレット端末を活用し、デジタルドリル学習等による「個別最適な学び」や習熟度に応じた学習を推進します。

□主体的・対話的で深い学びに向けて

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒主体の授業づくりを推進します。
- ・問題解決型・探究型の学習に取り組み、根拠や理由を言葉や数式・英文等で明確に説明・記述する指導を充実させます。
- ・ペアワークやグループでの話し合いを取り入れ、多様な思考を吟味し、自分の考えを広げ・深める学習を進めます。

□生活習慣や学習環境等の向上に関して

- ・基本的生活習慣の確立とともに、家庭学習時間の充実や自立的な学習習慣の定着を家庭と連携しながら推進します。
- ・キャリア教育、富士山学習等において地域人材・資源を積極的に活かし、郷土愛醸成と将来の職業・進路を探究する活動を推進します。
- ・朝読書等の活動を継続するとともに、家庭と連携して新聞や時事ニュース等の活字に触れる環境を整え、豊かな語彙力と思考力を育みます。
- ・コミュニティ・スクールとして、学校や生徒に関わる課題を共有し、地域と協力していきます。

子どもたちは、自己肯定感や規範意識を高めながら、夢や希望を持って生き生きと学校生活を送っています。今後も、一人一人が目標に向かって輝くことができるよう、学校、家庭、地域の連携を深め、子どもたちの成長を支えていきたいと思います。

【問い合わせ先】

富士吉田市教育委員会 富士吉田市立教育研修所
TEL 0555(22)1111(内線515) 直通 0555(23)1766